

jamf | PRO

クイックスタートガイド モバイルデバイス管理

Version 10.6.0

© copyright 2002-2018 Jamf. All rights reserved.

Jamf は、このガイドが正確であることを保証するために、最大限の努力を続けます。

Jamf
100 Washington Ave S Suite 1100
Minneapolis, MN 55401-2155
(612) 605-6625

著作権法の下、Jamf の書面による事前の同意なしに、本書の全体または一部を無断で複製することは禁じられています。

Apache Tomcat と Tomcat は、Apache Software Foundation の商標です。

Apple、Apple ロゴ、Finder、iBooks、iPad、iPod touch、macOS および OS X は、米国およびその他の国において登録された商標です。App Store および iBooks Store は、米国およびその他の国における Apple Inc. のサービスマークです。

App Store は、米国およびその他の国において登録された Apple Inc. のサービスマークです。

CASPER SUITE、COMPOSER®、COMPOSER ロゴ®、Jamf、Jamf ロゴ、JAMF SOFTWARE®、JAMF SOFTWARE ロゴ®、RECON® および RECON ロゴ® は、米国およびその他の国において登録もしくは慣習法による JAMF SOFTWARE, LLC の商標です。

IOS は、米国およびその他の国において登録された Cisco の商標です。

Java および MySQL は、Oracle とその関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標です。

Red Hat および Red Hat Enterprise Linux は、米国およびその他の国において登録された Red Hat, Inc. の商標です。

Windows は、米国およびその他の国において登録された Microsoft Corporation の登録商標です。

本ページに記載されている全ての製品名およびサービス名は、各社の登録商標または商標のどちらかです。

項目

- 4 ガイドの使い方
- 5 レッスンプラン
- 6 前提要件
- 7 Jamf Pro サーバ のインストール
- 8 Mac に Jamf Proサーバをインストール
- 11 Linux に Jamf Proサーバ をインストール
- 14 Windows に Jamf Proサーバ をインストール
- 17 SMTP Server の統合 (オプション)
- 18 LDAP ディレクトリサービスとの統合 (オプション)
- 19 セキュリティコンポーネントの設定

- 21 レッスン
- 22 モバイルデバイスを登録
- 24 インベントリ情報の表示
- 25 iOS 構成プロファイルを作成
- 26 モバイルデバイスに、リモートコマンドを送信
- 28 App の配布

- 29 さらに詳しく
- 30 さらに詳しく : インベントリ
- 31 さらに詳しく : 配布

jamf | PRO

ガイドの使い方

Jamf Pro によるモバイルデバイス管理は、4つの原則に基づいています。インベントリ、構成、セキュリティ管理および配布です。このガイドは1つの原則ごとに、レッスンに基づくワークフローを含んでいます。

このガイドの使用では、個々のワークフローをナビゲートする「レッスンプラン」セクションまたはブックマークパネルを活用してください。所属するオーガニゼーションニーズを満たすどのような要望においても、1つもしくは全てのワークフローを完了することができます。

ワークフロー完了後、このガイドの中の適切な「さらに詳しく」セクションを見てください。個々の「さらに詳しく」セクションは、Jamf Pro 管理者ガイドの中にある、拡張オプションと関連セクションのリストを含んでいます。

個々のレッスンを、1回だけは完了する必要があります。もしすでに1つレッスン(例えば、Jamf Pro インストール)を完了していたならば、それをスキップして次のワークフローに進んでください。

jamf | PRO

レッスンプラン

前提要件	1	Jamf Pro サーバのインストール
	2	SMTP Server の統合 (オプション)
	3	LDAP ディレクトリサービスとの統合 (オプション)
	4	セキュリティコンポーネントの設定
インベントリ	1	前提要件
	2	モバイルデバイスを登録
	3	インベントリ情報の表示
構成	1	前提要件
	2	モバイルデバイスを登録
	3	iOS 構成プロファイルを作成
セキュリティ管理	1	前提要件
	2	モバイルデバイスを登録
	3	モバイルデバイスに、リモートコマンドを送信
配布	1	前提要件
	2	モバイルデバイスを登録
	3	App の配布

jamf | PRO

前提要件

Jamf Pro サーバ のインストール

Jamf Pro サーバ は Jamf Pro のコア管理機能となる Web アプリケーションです。Jamf Pro によって、マネージドコンピュータ やモバイル機器のインベントリ、リモート管理、構成に関するタスクが可能になります。Jamf Pro の管理アプリケーションはすべて Jamf Pro と通信します。

以下のステップで、Jamf Pro をインストール:

1. 必須ソフトウェア (これまでにインストールしていない場合) をインストール
2. Jamfsoftware データベースを作成
3. Jamf Pro インストーラを実行

Jamf Pro は以下のプラットフォームにインストール可能です :

- Mac ([macOS に Jamf Proサーバをインストール](#) を参照)
- Linux ([Linux に Jamf Proサーバをインストール](#) を参照)
- Windows ([Windows に Jamf Proサーバをインストール](#) を参照)

Mac に Jamf Pro サーバをインストール

インストーラを使用して Jamf Pro をインストールするには、以下のステップを実行:

1. 必須ソフトウェア (これまでにインストールしていない場合) をインストールします。
2. Jamf Pro データベースを作成します。
3. Jamf Pro インストーラを実行します。

要件

Jamf Pro をホストするサーバは、オペレーティングシステム、Tomcat バージョン、データベース構成、および Java インストールの最低要件を満たしている必要があります。Jamf Pro サーバの環境要件の詳細については、*Mac Jamf Pro* 「Jamf Pro のシステム要件」セクションを参照してください。

上記に加えて、Mac 用 Jamf Pro インストーラには以下が必要:

- インテルプロセッサ (64-bit 対応)
- 2GB 以上の RAM
- 400 MB 以上の空き容量があるディスク
- Port 8443 および 9006 使用可能

ステップ 1: 必須ソフトウェアのインストール

Jamf Pro データベースを作成して Jamf Pro インストーラを実行するには、Java と MySQL をサーバにインストールする必要があります。手順については、[「Java および MySQL のインストール」](#) ナレッジベース資料を参照してください。

ステップ 2: Jamfsoftware データベースの作成

Jamf Pro データとそれにアクセスできる MySQL ユーザを保存する MySQL データベースを作成します。

このセクションでは、データベース名、ユーザ名、パスワードに MySQL のデフォルト設定を使用しています。所属するオーガニゼーションのセキュリティ要件に応じてカスタマイズしたユーザネームとパスワードの使用をお勧めします。尚、ユーザネームに「root」を使用することはお勧めできません。必要に応じて、異なるデータベース名に設定することもできます。

次の説明で使用する MySQL のデフォルト設定:

- データベース名: jamfsoftware
- ユーザ名: jamfsoftware
- パスワード: Jamfsw03!

注: MySQL 設定をカスタマイズする場合、JSS インストーラの実行時にデータベース領域へカスタム設定の入力プロンプトが表示されます。

1. ターミナルを開き、MySQL のコマンドラインに「root」としてアクセスするため、次を入力:

```
mysql -u root -p
```

MySQL がパスにない、あるいは別の場所にインストールされている場合、MySQL のコマンドラインを更新するか、次を入力:

```
/path/to/mysql -u root -p
```

注: MySQL のデフォルトパス: /usr/local/mysql/bin/

2. プロンプトが表示されたら、MySQL の「root」ユーザ用パスワードを入力します。「root」パスワードを作成していない場合、リターンキーを押してください。
3. データベースの作成には次を実行:

```
CREATE DATABASE jamfsoftware;
```

jamfsoftware の代わりにデータベース名を入力し、カスタマイズした例:

```
CREATE DATABASE myDatabaseName;
```

4. 新しい MySQL ユーザを作成:

```
CREATE USER 'jamfsoftware'@'localhost' IDENTIFIED BY 'Jamfsw03!';
```

5. 新しい MySQL ユーザのデータベースへのアクセスを許可:

```
GRANT ALL ON jamfsoftware.* TO 'jamfsoftware'@'localhost';
```

「jamfsoftware」および「Jamfsw03!」の代わりにデータベース名を入力し、MySQL のユーザ名とパスワードをカスタマイズした例:

```
CREATE USER 'customUsername'@'localhost' IDENTIFIED BY  
'customPassword';
```

```
GRANT ALL ON myDatabaseName.* TO 'customUsername'@'localhost';
```

ステップ 3: Jamf Pro インストーラの実行

Mac 用の Jamf Pro サーバを インストーラは、Apache Tomcat および Jamf Pro Web アプリケーションをインストールします。また、初期の配布ポイントも作成します。

Mac 用の Jamf Pro サーバを インストーラは、サーバへコピーしてから実行します。その後、インストーラを開き、画面上に表示される指示に従います。

Linux に Jamf Pro サーバ をインストール

インストーラを使用して Jamf Pro をインストールするには、以下のステップを実行:

1. 必須ソフトウェア (これまでにインストールしていない場合) をインストールします。
2. Jamf Pro データベースを作成します。
3. Jamf Pro インストーラを実行します。

要件

Jamf Pro をホストするサーバは、オペレーティングシステム、Tomcat バージョン、データベース構成、および Java インストールの最低要件を満たしている必要があります。Jamf Pro サーバの環境要件の詳細については、*Linux Jamf Pro* 「Jamf Pro のシステム要件」セクションを参照してください。

上記に加えて、Linux 用 Jamf Pro インストーラには以下が必要:

- インテルプロセッサ (64-bit 対応)
- 2GB 以上の RAM
- 400 MB 以上の空き容量があるディスク
- Wget ユーティリティがインストールされていること
- Port 8443 および 8080 使用可能

ステップ 1: 必須ソフトウェアのインストール

Jamf Pro データベースを作成して Jamf Pro インストーラを実行するには、Java と MySQL をサーバにインストールする必要があります。手順については、[「Java および MySQL のインストール」](#) ナレッジベース資料を参照してください。

ステップ 2: Jamfsoftware データベースの作成

Jamf Pro データとそれにアクセスできる MySQL ユーザを保存する MySQL データベースを作成します。

このセクションでは、データベース名、ユーザ名、パスワードに MySQL のデフォルト設定を使用しています。所属するオーガニゼーションのセキュリティ要件に応じてカスタマイズしたユーザ名とパスワードの使用をお勧めします。尚、ユーザ名に「root」を使用することはお勧めできません。必要に応じて、異なるデータベース名に設定することもできます。

次の説明で使用する MySQL のデフォルト設定:

- データベース名 : jamfsoftware
- ユーザ名: jamfsoftware
- パスワード: Jamfsw03!

注: MySQL 設定をカスタマイズする場合、Jamf Pro インストーラの実行時にデータベース領域へカスタム設定の入力プロンプトが表示されます。

1. コマンドプロンプトを開き、「root」として MySQL のコマンドラインユーティリティにアクセスする際の入力例:

```
mysql -u root -p
```

MySQL のインストール時に「root」パスワードを作成しなかった場合、-p は入力しないでください。

MySQL がパスにない、あるいは別の場所にインストールされている場合、mysql の代わりにインストールパスを入力します。

2. プロンプトが表示されたら、MySQL の「root」ユーザ用パスワードを入力します。
3. データベースの作成には次を実行:

```
CREATE DATABASE jamfsoftware;
```

jamfsoftware の代わりにデータベース名を入力し、カスタマイズした例:

```
CREATE DATABASE myDatabaseName;
```

4. 新しい MySQL ユーザを作成:

```
CREATE USER 'jamfsoftware'@'localhost' IDENTIFIED BY 'Jamfsw03!';
```

5. ユーザへ与えるデータベースのアクセス権 (アクセス許可):

```
GRANT ALL ON jamfsoftware.* TO 'jamfsoftware'@'localhost';
```

「jamfsoftware」および「Jamfsw03!」の代わりにデータベース名を入力し、MySQL のユーザ名とパスワードをカスタマイズした例:

```
CREATE USER 'customUsername'@'localhost' IDENTIFIED BY  
'customPassword';
```

```
GRANT ALL ON myDatabaseName.* TO 'customUsername'@'localhost';
```

ステップ 3: Jamf Pro サーバ インストーラの実行

Linux 用の Jamf Pro サーバ インストーラは Apache Tomcat および Jamf Pro Web アプリケーションをインストールします。

1. Linux 用の Jamf Pro サーバ インストーラ(jamfproinstaller.run)をサーバへコピーします。

注: Linux 用 Jamf Pro インストーラを入手するには、Jamf Nation にログインし、「別のダウンロード方法を表示」をクリックしてから、次のページの Jamf Pro Installer for Linux (Linux 用 Jamf Pro インストーラ) の下にある **Download** (ダウンロード) ボタンをクリックします。
<https://www.jamf.com/jamf-nation/my/products>

2. スーパーユーザの権限を持つユーザとしてサーバにログインします。
3. インストーラを開始する際の実行コマンド例:

```
sudo sh /path/to/jssinstaller.run
```

4. システム構成の確認が完了した時点で「y」を入力して次へ進みます。
5. (Red Hat Enterprise Linux のみ) インストールが完了したら、ファイアウォール構成を編集。port 8443 へアクセスする。次を実行:

```
sudo system-config-firewall-tui
```

6. (Red Hat Enterprise Linux のみ)その他またはカスタマイズを選択し、TCP プロトコルの port 8443 をマニュアル入力します。GUI またはシェルインタフェースのいずれかによって、オプション選択が異なります。
7. 登録済みコンピュータの Web ブラウザを開き、プロトコル、IP アドレス、サーバの DNS 名、port を入力し、そこから Jamf Pro へアクセスします。例: <https://jamf.mycompany.com:8443/>
8. Jamfsoftware データベース作成時にデータベース名、ユーザ名、パスワードをカスタマイズした場合、あるいは MySQL が port 3306 以外のポートを使用している場合、データベース接続プロパティ領域が表示されます。画面上の指示に従って、Jamf Pro と jamfsoftware データベースを接続すると、Jamf Pro へアクセスできます。

Windows に Jamf Pro サーバ をインストール

インストーラを使用して Jamf Pro をインストールするには、以下のステップを実行:

1. 必須ソフトウェア (これまでにインストールしていない場合) をインストールします。
2. Jamf Pro データベースを作成します。
3. Jamf Pro インストーラを実行します。

要件

Jamf Pro をホストするサーバは、オペレーティングシステム、Tomcat バージョン、データベース構成、および Java インストールの最低要件を満たしている必要があります。Jamf Pro サーバの環境要件の詳細については、*Windows Jamf Pro* 「Jamf Pro のシステム要件」セクションを参照してください。

上記に加えて、Windows 用 Jamf Pro インストーラには以下が必要:

- インテルプロセッサ (64-bit 対応)
- 2GB 以上の RAM
- 400 MB 以上の空き容量があるディスク
- Port 8443 および 8080 使用可能

注: Windows 用 Jamf Pro インストーラは、Port 8443 に対してファイアウォールの例外を自動作成します。第三者機関製のファイアウォールを使用している場合や、Port 8443 以外の Port を使用している場合、ファイアウォールの例外を手動で追加する必要があります。

ステップ 1: 必須ソフトウェアのインストール

Jamf Pro データベースを作成して Jamf Pro インストーラを実行するには、Java と MySQL をサーバにインストールする必要があります。手順については、[「Java および MySQL のインストール」](#) ナレッジベース資料を参照してください。

ステップ 2: Jamfsoftware データベースの作成

Jamf Pro データとそれにアクセスできる MySQL ユーザを保存する MySQL データベースを作成します。

このセクションでは、データベース名、ユーザ名、パスワードに MySQL のデフォルト設定を使用しています。所属するオーガニゼーションのセキュリティ要件に応じてカスタマイズしたユーザ名とパスワードの使用をお勧めします。尚、ユーザ名に「root」を使用することはお勧めできません。必要に応じて、異なるデータベース名に設定することもできます。

次の説明で使用する MySQL のデフォルト設定:

- データベース名: jamfsoftware
- ユーザ名: jamfsoftware
- パスワード: Jamfsw03!

注: MySQL 設定をカスタマイズする場合、JSS インストーラの実行時にデータベース領域へカスタム設定の入力プロンプトが表示されます。

1. MySQL コマンドラインクライアントを開きます。
2. プロンプトが表示されたら、MySQL の「root」ユーザ用パスワードを入力します。
3. データベースの作成には次を実行:

```
CREATE DATABASE jamfsoftware;
```

jamfsoftware の代わりにするデータベース名を入力し、カスタマイズした例:

```
CREATE DATABASE myDatabaseName;
```

4. 新しい MySQL ユーザを作成:

```
CREATE USER 'jamfsoftware'@'localhost' IDENTIFIED BY 'Jamfsw03!';
```

5. 新しい MySQL ユーザのデータベースへのアクセスを許可:

```
GRANT ALL ON jamfsoftware.* TO 'jamfsoftware'@'localhost';
```

「jamfsoftware」および「Jamfsw03!」の代わりにするデータベース名を入力し、MySQL のユーザ名とパスワードをカスタマイズした例:

```
CREATE USER 'customUsername'@'localhost' IDENTIFIED BY  
'customPassword';
```

```
GRANT ALL ON myDatabaseName.* TO 'customUsername'@'localhost';
```

ステップ 3: Jamf Pro サーバ インストーラの実行

Windows 用の Jamf Pro サーバ インストーラは Apache Tomcat および Jamf Pro Web アプリケーションをインストールします。

注: Windows 用 Jamf Pro インストーラを入手するには、Jamf Nation にログインし、「別のダウンロード方法を表示」をクリックしてから、次のページの Jamf Pro Installer for Windows (Windows 用 Jamf Pro インストーラ) の下にある **Download** (ダウンロード) ボタンをクリックします。

<https://www.jamf.com/jamf-nation/my/products>



Windows 用の Jamf Pro インストーラは、サーバへコピーしてから実行します。その後、インストーラを開き、画面上に表示される指示に従います。

注: インストーラを実行できるのは管理者のみです。

SMTP Server の統合 (オプション)

Eメールを介して登録通知を送信するには、Jamf Pro に SMTP サーバの設定を構成することにより SMTP サーバと統合する必要があります。

SMTP サーバ設定の構成

1. Jamf Pro にログイン
2. ページ右上隅の **Settings (設定)**  をクリックします。
3. **System Settings (システム設定)** をクリックします。
4. **SMTP サーバ** をクリック 
5. **Edit (編集)** をクリックします。
6. 領域上で、設定を構成
7. **Save (保存)** をクリックします。




管理者ガイド参照セクション

“SMTP サーバとの統合”

LDAP ディレクトリサービスとの統合 (オプション)

登録時に LDAP ディレクトリアカウントを使用してログインをユーザーに要求するには、LDAP サーバを Jamf Pro に追加することにより、LDAP ディレクトリサービスと統合する必要があります。これにより、登録時にユーザーと位置情報を収集することができます。

LDAP Server 追加

1. Jamf Pro にログイン
2. ページ右上隅の **Settings (設定)**  をクリックします。
3. **System Settings (システム設定)** をクリックします。
4. **LDAP サーバ** をクリック 
5. **New (新規)**  をクリックします。
6. 画面上の指示に従って LDAP サーバを追加

管理者ガイド参照セクション

“LDAP ディレクトリサービスとの統合”

セキュリティコンポーネントの設定

モバイルデバイスを登録する前に、Jamf Pro サーバ を使ってモバイルデバイスの管理に必要なセキュリティコンポーネントの設定を行ってください。

- Public key infrastructure (PKI)
- SSL 証明書
- プッシュ証明書

PKI

Apple Push Notification service (APNs) と確実に安全な通信をするために、Jamf Pro には証明書に基づく認証をサポートする public key infrastructure (PKI) が必要です。PKI には以下のコンポーネントが含まれなければなりません。

- Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) をサポートする Certificate Authority (CA)
- 署名証明書
- CA 証明書

Jamf Pro は SCEP 用のサポートのある内蔵 CA を使用する事前構成された PKI を含みます。内蔵 CA を使用するのに構成は必要ありません。署名と CA 証明書が作成され保存されます。コンピュータとモバイルデバイスに証明書を発行する際に内蔵 CA がデフォルトで使用されます。

SCEP をサポートする外部 CA へのアクセス権を持っている場合も、独自の PKI を設定することができます。外部 CA とは所属するオーガニゼーションもしくは信頼できる第三者機関によってホストされている CA を指します。外部 CA と Jamf Pro を統合した場合、この CA がモバイルデバイスに証明書を発行するのに使用されます。

外部 CA を統合する方法については、Jamf Pro 管理者ガイド「公開鍵 インストラクチャ」を参照のこと。

SSL 証明書

モバイルデバイスが偽のサーバではなく Jamf Pro と通信しているか確認するために、有効な SSL 証明書が必要となります。

SSL 証明書の作成やアップロードの方法については、Jamf Pro 管理者ガイド「SSL 証明書」を参照のこと。

プッシュ証明書

Jamf Pro には Apple Push Notification(APNs) と通信するために有効なプッシュ証明書が必要です。この通信はモバイルデバイスを登録と管理に必要なとなります。

Jamf Pro のアシスタントが新たなプッシュ証明書 (.pem) の作成と JAA へのアップロードをするための以下のステップをご案内します。




1. Jamf Nation より証明書署名要求を入手
2. Apple のプッシュ証明書ポータルにログインし、Jamf Nation から入手した署名済 CSR をアップロードし、そこで入手したプッシュ証明書をダウンロードするとプッシュ証明書が作成される
3. Jamf Pro にプッシュ証明書をアップロード

要件

プッシュ証明書を作成するには以下が必要

- 有効な Jamf Nation のアカウント
Jamf Nation のアカウントを作成するには以下へ
<https://jamfnation.jamfsoftware.com/createAccount.html>
- 有効な Apple ID (Corporate Apple ID 推奨)
- Apple の iOS デベロッパープログラム (iDEP) から入手したプッシュ証明書を更新する場合、証明書を入手する際に使用した iDEP エージェントアカウント用の Apple ID を使う必要があります

プッシュ証明書の作成

1. Jamf Pro にログイン
2. ページ右上隅の **Settings (設定)**  をクリックします。
3. **Global Management (グローバル管理)** をクリックします。
4. **Push Certificates (プッシュ証明書)**  をクリックします。
5. **New (新規)**  をクリックします、以下のいずれかを行う
 - Jamf Pro をホストするサーバがアウトバウンドの接続をしている場合、Jamf Nation から署名済 CSR をダウンロードを選択
Jamf Pro を 443 ポートの Jamf Nation に接続し、署名済み CSR を獲得
 - Jamf Pro をホストしているサーバがアウトバウンド接続を持たない場合は、CSR ダウンロードを選択し、後ほど Jamf Nation を使用して署名
6. スクリーン上の解説に従って、プッシュ証明書 (.pem) をアップロード

管理者ガイド参照セクション

- Public key infrastructure (PKI)
- SSL 証明書
- プッシュ証明書

jamf | PRO

レッスン

モバイルデバイスを登録

登録とは、デバイスと Jamf Pro を接続するためにモバイルデバイスを Jamf Pro サーバ に追加する作業を指します。モバイルデバイスが追加されると、そのデバイスのインベントリ情報が Jamf Pro に送信され、デバイスが管理されるようになります。これによりモバイル上でのインベントリ、構成、セキュリティ管理および配布が可能になります。

ユーザに登録ポータルにログインして各自のモバイルデバイスを登録してもらうことも可能です。登録ポータルでは必要なプロフィールと証明書のインストールが求められます。

ユーザを登録ポータルに案内するには登録 URL を送る必要があります。この URL は Jamf Pro サーバ の URL 全体の最後に 「/enroll」 を加えたものです。以下は例

`https://jss.mycompany.com:8443/enroll`

この URL は Jamf Pro からのEメールまたは SMS 通知で送ることができます。Jamf Pro に LDAP サーバが設定されている場合は、ユーザは LDAP ディレクトリアカウントを使って登録ポータルにログインできます。これによって、登録の際にユーザおよび位置情報を収集することができます。

要件

モバイルデバイス登録通知をEメールで送信するには Jamf Pro に SMTP サーバが設定されている必要があります。(詳細については [SMTP サーバの統合\(オプション\)](#) を参照のこと。)

ユーザが LDAP ディレクトリを使って登録ポータルにログインするには LDAP サーバが Jamf Pro に設定されている必要があります。(詳細については [LDAP ディレクトリサービスとの統合\(オプション\)](#) を参照のこと。)

登録通知の送信

登録通知はEメールまたは SMS メッセージで送ることができます。

通知を作成する前に、送信したいユーザのEメールアドレスあるいは電話番号を持っているか確認してください。

1. Jamf Pro にログイン
2. ページトップの **Devices (デバイス)** をクリックします。
3. **Invitations (登録通知)** をクリックします。
4. **New (新規)**  をクリックします。
5. 画面上の説明に従って登録通知を送信

指定したEメールアドレスか携帯電話番号に登録通知がすぐに送られます。

ユーザーは招待状を受信すると、登録 URL をタップして、案内の一連の手順に従ってモバイルデバイスを登録します。

管理者ガイド参照セクション

- "モバイルデバイスでの User-Initiated Enrollment" (ユーザによる登録)
- "モバイルデバイスでの User-Initiated Enrollment Experience" (ユーザによる登録経験)

インベントリ情報の表示

Jamf Pro サーバは各モバイルデバイスのインベントリ情報を保存しています。Jamf Pro では以下の情報の表示と編集が可能です。

- 一般
- ハードウェア
- ユーザと位置
- 購入
- セキュリティ
- Apps
- マネージド Books
- ネットワーク
- 証明書
- プロファイル
- Provisioning Profiles
- 添付ファイル

モバイルデバイスでのインベントリ情報の表示

1. Jamf Pro にログイン
2. ページトップの **Devices (デバイス)** をクリックします。
3. **Search Inventory (インベントリ検索)** をクリックします。
4. 検索ポップアップメニューから「モバイルデバイス」を選択
5. 検索欄を空白にしたまま改行キーを押す
6. 情報を表示したいモバイルデバイスをクリック
モバイルデバイスのインベントリ情報が表示されます。
7. モバイルデバイスの情報を表示するにはカテゴリを使用

管理者ガイド参照セクション

"モバイルデバイスのインベントリ情報の表示と編集"

さらに詳しく

インベントリ機能の詳細については「さらに詳しく」[を参照のこと: インベントリ](#)

iOS 構成プロファイルを作成

モバイルデバイス構成プロファイルは、モバイルデバイスの設定や制限を定義しやすい XML ファイル (.mobileconfig) です。Jamf Pro サーバを使ってモバイルデバイス構成プロファイルを作成したり、プロファイルが適用されるべきモバイルデバイスやユーザを指定することができます (「適用範囲」)。

このレッスンではモバイルデバイスにパスコードを強制する構成プロファイルの作成方法を説明します。

注: パスコード Payload は、Apple TV デバイスを構成できません。

モバイルデバイス構成プロファイルを作成

1. Jamf Pro にログイン
2. ページトップの **Devices (デバイス)** をクリックします。
3. **Configuration Profiles(構成プロファイル)** をクリックします。
4. **New (新規)** + New をクリックします。
5. 一般payload にプロファイルの名前を入力
6. パスコード payload を選択し、構成をクリック
7. 領域で設定を構成
8. **Scope (適用範囲)** タブをクリックし、プロファイルの適用範囲を設定します。
9. **Save (保存)** をクリックします。

プロファイルは適用範囲内のモバイルデバイスが次に Jamf Pro に接続した際にインストールされます。

管理者ガイド参照セクション

"モバイルデバイス構成プロファイル"

モバイルデバイスに、リモートコマンドを送信

- インベントリを更新
 - デバイスをロック
 - デバイスのパスコードを削除
 - デバイスの制限を削除 (監視対象のみ)
 - デバイスの登録解除
 - デバイスの消去
注：デバイスを消去する際、デバイスのアクティベーションロックの解除を選択することも可能です。
 - 空のプッシュ通知を送信
 - デバイスの壁紙を設定 (監視対象のみ)
 - 音声やデータローミングの設定管理(携帯電話機能を持つデバイスのみ)
 - 個人所有のデバイスの場合は機関情報を削除し、デバイスを解除する
 - 共有の iPad の場合は、ログインしているユーザからログアウトする
 - デバイスの紛失モードを有効にする (監視対象のみ)
 - デバイスの位置情報をアップデートする(紛失モードが有効になっているデバイスのみ)
- 一つのモバイルデバイスにリモートコマンドを送ることが可能です。

注：特定のデバイスに使用できるリモートコマンドはデバイスの所有権の種類やデバイスのプラットフォーム、デバイスの種類や iOS のバージョンによって異なります。

リモートコマンドの送信

1. Jamf Pro にログイン
2. ページトップの **Devices (デバイス)** をクリックします。
3. **Search Inventory (インベントリ検索)** をクリックします。
4. 検索ポップアップメニューから「モバイルデバイス」を選択
5. 検索欄を空白にしたまま改行キーを押す
6. リモートコマンドを送りたいモバイルデバイスをクリック
7. 管理タブをクリックし、送信したいリモートコマンドのボタンをクリック

デバイスが次に Jamf Pro に接続した際にリモートコマンドが実行されます。

管理者ガイド参照セクション

"モバイルデバイスのリモートコマンド"

App の配布

Appを配布する際に app の設定を構成し、それを受け取るユーザやモバイルデバイスを指定します。(「適用範囲」)

1. Jamf Pro にログイン
2. ページトップの **Devices (デバイス)** をクリックします。
3. **Apps** をクリック
4. **New (新規)**  をクリックします。
5. **App Store app** を選択し、**次へ**をクリック
6. app の名前を入力し、App Store の国を選択して**次へ**をクリック
7. **追加**したい app の追加をクリック
8. 一般領域上で設定を検証
9. **Scope (適用範囲)** タブをクリックし、app の適用範囲を設定します。
10. **Save (保存)** をクリックします。

適用範囲に含まれるモバイルデバイスが次回 Jamf Pro と通信する際に app が配布されます。

管理者ガイド参照セクション

"App Store App"

さらに詳しく

配布機能の詳細については「さらに詳しく」[を参照のこと: 配布](#)

jamf | PRO

さらに詳しく

さらに詳しく：インベントリ

- 「モバイルデバイスインベントリ収集設定」 - モバイルデバイスからインベントリが収集される頻度の設定方法を学びます。
- 「モバイルデバイスインベントリ表示設定」 - シンプルモバイルデバイス検索の結果に表示される属性フィールドを変更する方法を確認します。
- 「シンプルモバイルデバイス検索」 - インベントリ内のアイテムを簡単に広範囲検索する方法を学びます。
- 「アドバンスドモバイルデバイス検索」 - インベントリ内のモバイルデバイスを検索する詳細検索条件の使い方を学びます。
- 「モバイルデバイスレポート」 - シンプルモバイルデバイス検索の結果に表示された属性フィールドの変更の方法を学びます。
- 「モバイルデバイスでの Mass Action の実行」 - 潜在的に手間のかかるタスクを同時に複数のモバイルデバイスで実行する方法を確認します。
- 「モバイルデバイスのインベントリ情報の表示と編集」 - 表示および編集できるモバイルデバイスのインベントリ情報の種類を学びます。
- 「モバイルデバイスの管理情報の表示」 - iOS 構成プロファイルや app などのモバイルデバイス管理情報を表示する方法を学びます。
- 「モバイルデバイスの履歴の表示」 - モバイルデバイスの管理、ユーザと位置、app インストール等の履歴表示方法を学びます。
- 「Jamf Pro からのモバイルデバイスの削除」 - Jamf Pro サーバ からモバイルデバイスを削除する方法を確認します。
- 「ユーザの割当」 - モバイルデバイスにユーザを割り当てる方法を確認します。
- 「シンプルユーザ検索」 - インベントリ内のユーザをすばやく広範囲に検索する方法について学びます。
- 「ユーザ用インベントリ情報の表示と編集」 - ユーザ用のインベントリ情報の表示と編集の方法を確認します。

さらに詳しく：配布

- 「管理対象 App の理解」 - 管理対象 app と非管理対象 app の違いについて学びます。またどのモバイルデバイスが管理対象 app をサポートしているかを確認します。
- 「App の配布方法の確認」 - 異なる app 配布方法について学びます。
- 「Provisioning Profiles」 - In-house app を許可する provisioning profile をアップロードする方法を学びます。
- 「In-House Apps」 - In-house app とその provisioning profiles の配布方法を確認します。
- 「App Store Apps」 - App Store apps の配布方法を確認します。
- 「In-House Books」 - In-house Books の配布方法を確認します。
- 「iBooks Store で入手可能な Books」 - iBooks で入手可能な Book の配布方法を確認します。
- 「VPP との統合」 - Apple の Volume Purchase Program (VPP) との統合方法を確認します。これにより、VPP 管理された配布を活用することができます。
- 「モバイルデバイスへの VPP 管理された配布」 - VPP 管理された配布用のモバイルデバイスに App Store apps を割り当てる方法を確認します。
- 「ユーザーベースの VPP 割当」 - VPP 管理された配布の対象であるユーザにコンテンツの割り当て方法を確認します。